

福祉のひろば



2012

特集

二〇一二年 社会福祉を考える

日本社会の貧困構造と二四時間型社会

二〇一二年の社会福祉・社会保障の課題

小川恂藏さんから何を考えるか

横湯園子



ひろばトーク

まんが家・「銭湯文化サポーターズ」代表 うえまつ ラッキー植松さん

.....
まんがも銭湯も、人が喜ぶのがいい



編集 総合社会福祉研究所

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

http://www.kyoto-archi.co.jp/

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21

http://www.creates-k.co.jp

クリエイツかもがわ



TEL 075 (661) 5741

FAX 075 (693) 6605

価格税込・送料何冊でも240円

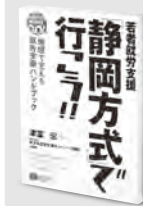
●静岡方式はとてシンプル、「どんな人でも働ける」という信念を、ただちに実行に移すだけ！

若者就労支援

静岡方式マ

行ッテ！！

地域で支える 就労支援ハンドブック



津富宏十 NPO法人
青少年就労支援ネットワーク静岡 ◆編著

すべての若者を受け入れ、支援は無償。

拠点となる「場」を持たず、「ゴール(職場)へ一直線」
多様な引き出しをもつ「素人(サポーター)」集団が緊密に連
携、働けない若者を働く若者に変える！ 若者に寄り添う伴
走型支援のノウハウをすべて明らかに。 定価2100円

●「働きたい！」「社会で役割を持ちたい！」人と
支援者に贈る！

働くこととリカバリー

IPSハンドブック

中原さとみ・飯野雄治◆編著

定価2310円

精神疾患があっても、IPSにもとづく支援で自分らしい充実
した人生を過す(リカバリー)！ 当事者や家族が自分たち
に必要なサポートを考え、支援を求めるためのハンドブック！


集まれば 変えられる！

『震災だから』じゃすまされない！

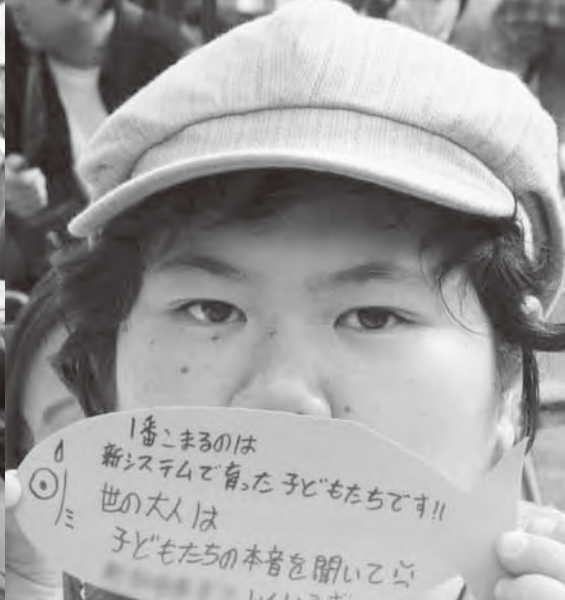
まともな仕事と人間らしい生活を！

全国青年大集会 2011

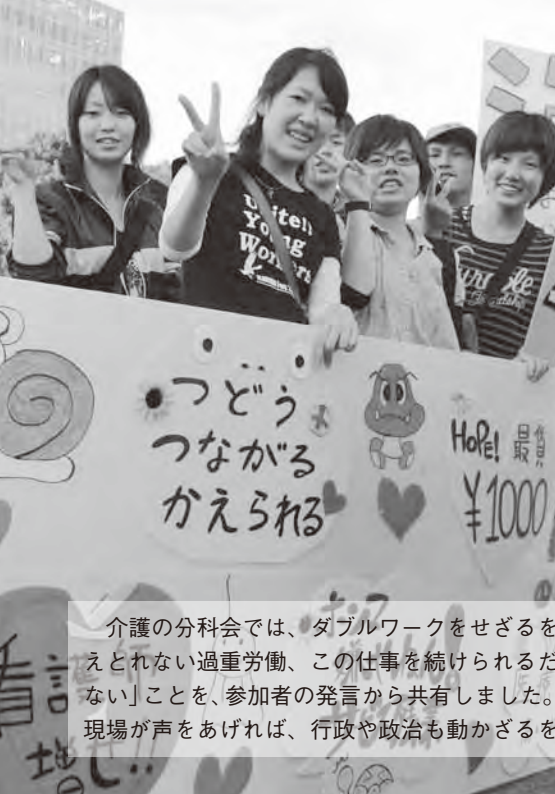
(10月23日・東京 明治公園)



「笑顔で働きたい!」「生活できる賃金が欲しい!」「休みが欲しい!」「サービス残業したくない!」「学費の心配ばかりしたくない!」「結婚したい!」——現状に対する若者の怒りは我慢の限界です。不当解雇、サービス残業、ソルマ、低賃金。東日本大震災を口実とした「震災切り」、や減給も蔓延しています。まじめに働いているのになぜクビにされるのか、なぜ自分の生活さえ維持することができないのか。7回目となった昨秋の全国青年大集会には、全国から夜行バスなどで4800人の青年が駆けつけ、参加できなかった多くの仲間の方も声をあげました。その様子は初めてインターネットで生中継されました。



保育現場に市場競争を持ち込み、子どもの保育を自己責任に転嫁する「子ども・子育て新システム」の導入を許さない！——保育の分科会では「子ども・子育て新システム」の内容を寸劇で説明し、「小さい魚も集まれば大きく強い魚になる」と、みんなのメッセージを集めて垂れ幕を作りました。さすが保育士さん。わかりやすく、みんなが参加できる分科会となりました。



介護の分科会では、ダブルワークをせざるを得ないほどの低賃金、人手が足りず休憩時間さえとれない過重労働、この仕事を続けられるだろうかという生活の不安などは「自分だけじゃない」ことを、参加者の発言から共有しました。「現場がつながり、共感し、声をあげていこう！現場が声をあげれば、行政や政治も動かざるを得なくなる」と締めくくりました。



今回の集会では、アメリカと韓国からも労働組合が参加し、国を超えて同じ問題を共有していることを訴えました。ニューヨーク・ウォール街から世界中に広がった「STOP 格差・貧困」の若者たちのアピールは、日本にも大きな影響を与えています。マスメディアが報道しなくても、インターネットが世界をつなげています。日本の若者も「どうせ何も変わらない」ではなく、「集まれば何かが変わる、変えられる」という思いを強くしています。

大雨の予報が、汗をかくほどの晴天になりました。全国から集まった若者の思いが、雨雲まで吹き飛ばしたようです。

(写真・文 申佳弥)

【ひろばトーク】

まんがも銭湯も、人が喜ぶのがいい ラッキー 植松 6

福祉のひろば

2012年1月号

●特集● 2012年 社会福祉を考える

①日本社会の貧困構造と24時間型社会 9

唐鎌 直義・清水 俊朗・吉田 穂波

②2012年の社会福祉・社会保障の課題 23

本誌全国編集委員＝相野谷安孝・河合 克義・上坪 陽

上野さと子・植田 章・吉本 哲夫

福井 典子・細貝大二郎・前田 鉄雄

●連載●

フォーラム

子どもたちへの責任—貧困な放課後の生活 植田 章 48

ひとつのこと—社会福祉労働と私たちの実践

ひむろこだま保育園 楽しいあそびで自信をつけた子どもたち

中野 里香・梶原 実季 50

相談室の窓から

安心感と共感を土台に 青木 道忠 52

連載・小川政亮 第一部 父 恸滅〈番外編〉

小川恸滅さんから何を考えるか 横湯 園子 54

わらじ医者 早川一光の「よろず診療所日誌」

不思議、ふしぎ、人間のつくり(その1) 早川 一光 58

育つ風景 福島のつどい 清水 玲子 60

野口雨情——名作の底に流れるもの——

第10回 『兎のダンス』 奈良 達雄 62

映画案内 『幕末太陽傳』 吉村 英夫 64

現代の貧困を訪ねて

生活保護受給者が「史上最高」に 生田 武志 66

地球へ途中下車

第5回 平和を守るたたかい—アウシュビッツ 根津 眞澄 68

私の研究ノート

就職困難者の就労支援と在宅ワークについて 高野 剛 70

ホームレスから日本を見れば ありむら潜 72

地域から現場から

南三陸おもちゃの図書館活動再開 鈴木 清美 73

花咲け！男やもめ 川口モトコ 74

●表紙の絵と写真●

神門やす子

写真は、かつて夕張にあった大観覧車

(下野祇園)



●カット●

川本 浩

今月の本棚 39/みんなのポスト 40/

しりとりであそぼう！&憲法クイズ 75/福祉の動き 76

●グラビア● 集まれば変えられる！ 全国青年大集会2011

まんがも銭湯も、
人が喜ぶのがいいまんが家・「銭湯文化サポーター^ズ」代表 ラッキー^{うえまつ}植松さん

「似らすとれーしょん」というのは、「似顔絵」と「イラストレーション」とを組み合わせて創った言葉です。僕はもともとまんが家としてデビューしたので、似顔絵を顔だけでなく、身体も描いたり、「面白い動きやマンガ的アイデアを加えたらどうだろうか」と思って始めたんです。「楽喜百人一首」シリーズでは、絵はもちろん歌も自分で作ります。駄洒落を織り込んだりするので、絵よりも歌を考えるほうが時間がかかりますね。それも一人で百首作るので、本当は「楽喜一人百首」なんですけど……。

似らすとれーしょんの教室や専門学校のまんが講師、雑誌やカタログ、社内報などのイラスト、結婚式の企画会社の依頼でカプルの似らすとれーしょんを描く仕事などもあります。会社の社史や社長の一代記をまんがにすることもあります。依頼に応じて数十ページのストーリーまんがだったり四コマまんがだったり、内容や対象によって絵も変えます。小学生向けのクイズの本や、中学・高校生向けの職業紹介のまんがなども手がけました。依頼された仕事は、相手企業を応援するという気持ちでやっています。なので、応援できない仕事は引き受けません。たとえば原発関連。使用済み燃料や廃棄物を処理できない物に手を出してはいけないと思つてますから。逆にお手伝いしたいと思うことは、金額を聞かずにお引き受けしたりします。

自主的な活動では、一九九一年の湾岸戦争のときに反戦平和をテーマにした取り組みをしようと、仲間と「ピースケ・プロジェクト」を立ち上げ、自分にとつての平和とは何かを考えてもらう「ピースケ展」にも仲間と取り組みました。以来毎年、大阪市内で開かれる中之島まつりで仲間と似顔絵を描き、収益をイラクの子どもたち等に寄付してきました。寄付先も段々と増え、東日本大震災の被災者の方々へもお送りしました。

銭湯巡りも好きで、どこかへ出かけるときは必ず銭湯グッズを持って行き、行った先



らっきー うえまつ

1959年、大阪市生まれ。大学では映画づくりを学び、卒業後、まんが家としてデビュー。日本漫画家協会会員。「似らすとれーしょん」（似顔絵まんが）を創案し、教室講師を務めるほか、創作活動を多数行っている。銭湯文化サポーター'S代表。「日本が世界に誇れる文化は、まんがと銭湯とプロレスだー！」が座右の銘。

ホームページ <http://www.oct.zaq.jp/1-a/>

で一日一湯、一年のうち三〇〇日以上は銭湯に入っています。地域紙で連載中の「なにわ銭湯漫湯〜記」では、実際に入った銭湯をイラスト入りで紹介しています。

銭湯の魅力は、家の風呂にはない気持ちよさ。レトロな体重計が現役で働いていたり、漢数字が彫り込まれた脱衣箱などの懐かしさ。それに何より人と人とのつながり。初めて行っても大きな家族の中に入れてもらうような感じがあって、それがいいところですね。番台のおっちゃんもおばちゃんも、しゃべっているお客さんも、その銭湯の味、地域性があります。バリアフリーの銭湯も増えているし、顔見知りとしゃべれるから、お年寄りにとっても家で一人でお風呂に入るよりいいんですよ。そういうコミュニティの役割も銭湯にはありますね。でも、銭湯はどんどん減っています。だから、今のうちに入りに行こうよ、気持ちよさを感じてよ、と言いたい。

国の登録有形文化財の指定を受けていたある銭湯の廃業・解体をきっかけに、二〇〇八年に「銭湯文化サポーター'S」^スが結成されました。僕が今、二代目代表で、いろいろと活動しています。たまたまメンバーに絵を描く人間が何人かいるので、「アート巡回展」と称して銭湯に作品を飾って見てもらったり、インターネットラジオ「ふろいこか〜」では、銭湯の脱衣場を借りて収録しています。メンバーの休みを調整し、銭湯に「貸して」と交渉に行くんですが、断られて五軒目でやっと承諾してもらえるなどなかなか大変で、「なんで趣味でここまでやるんやろ」と自分でも思いますが、それがまた面白い。とにかく銭湯を知らない人に銭湯に足を運んでもらいたいです。

僕の夢は「隠居」です。ほどほどに働いて、昼間から銭湯に行ったり好きなことをする。仕事と趣味を近づけて、自分ができること、やりたいことで誰かに喜んでもらう、その結果としてお金が入ってくれば……。最後のところがなかなかむずかしいんですけどね。

特集

2012年 社会福祉を考える

新年号は、からがまなおよし唐鎌直義さんに「日本社会の貧困構造と二四時間型社会」をテーマに語っていただきました。そこに、福祉労働の現況と課題しみずとしろう（清水俊朗さん）、海外生活、特に北米の生活体験から日本の保育や医療の問題よしたほなみ（吉田穂波さん）に加わっていただき、報告と意見交換を行いました。

特集の後半は、本誌全国編集委員に2012年の課題を語っていただきました。



2012年夏までに、さなだなおし故眞田是氏（前総合社会福祉研究所理事長）の著作集を発売する予定です。2005年7月に行われた氏の最後の講演は、「憲法と社会福祉」でした。憲法が示す社会福祉の理念やその実践を、憲法に拘束されているはずの国家が違憲状態の制度に変質させ、生活・生存権や尊厳ある人権を守りその権利を保障する社会福祉の実践と向き合う事業者や労働者、そして国民を疎外します。

東日本大震災で多くの国民は、なによりも命と生活再建を求め、人間らしい生き方を大切にする地域や社会を希求し、ボランティアとしても現地に駆けつけ、地域の尊厳と復旧活動を支えてきました。しかし、政府の基本姿勢は、米国のジャーナリスト、ナオミ・クラインが著した「ザ・ショック・ドクトリン」（2007年、日本語訳は「惨事便乗型資本主義」）で示す復興政策であり、津波に破壊された地域経済を、今度は政策的破壊が襲い始めています。

「福祉のひろば」は、社会福祉の現場実践が、憲法からのかいり乖離を強要する政策に、しのぎを削りながら向き合っている活動を紹介してきました。「私たち抜きに、私たちのことを決めないで！」の声と運動は、障害者運動の粘り強い取り組みや広がりから若者やさまざまな分野にまで広がり、共同が生まれ、育ち始めています。今年も、よりいっそうしのぎを削る社会福祉実践と運動を激励し、協働していきたいと願っています。

（編集主幹）